



ワコム (6727)

土台を固める

2025年2月10日

25年3月期3Q決算アップデート

● **最重要段階に向けてポジティブな兆し** - 次期中期経営方針「Wacom Chapter 4」(2026年3月期~2029年3月期)の発表が近づくなか、ワコムの2025年3月期第1~3四半期決算は、テクノロジーソリューション事業がOEM提供先の需要増加により好調を維持する一方、ブランド製品事業はプロ向けモデル以外の需要が減少した。それでも、棚卸資産に関する一時費用の減少や事業構造改革の効果によりブランド製品事業のセグメント損失が縮小していることは心強く、中期的に収支均衡の達成が見込まれる。経営陣は第4四半期も構造改革に伴う特別損失を追加計上する可能性があるとし、2026年3月期の前に事業を最適化しておくことの重要性を強く印象づけた。

積極的な資本配分

- **通期会社予想は修正なし、投資と自社株買いを発表** - ワコムは2025年3月期通期業績予想を据え置いたが、事業構造改革に伴う追加の特別損失に関連して、影響判明後に修正が行われる可能性がある。同社は資本提携などの投資活動に引き続き重点を置いており、国内有数のAI企業であるPreferred Networksとの協業関係を深化させるため、2024年12月に10億円を出資した。さらに、25億円(500万株、発行済み株式総数の3.61%)を上限とする新たな自社株買いも発表。これにより、現在の中期経営方針「Wacom Chapter 3」期間中の自社株への累計資本配分額は目標の200億円に到達する。
- **バリュエーション** - 据え置いた当社業績予想に基づく、2026年3月期予想PERは10.6倍、同FCF利回りは11.8%。2026年3月期の予想株主還元利回りは6.3%で、30億円の自社株買いと一株当たり配当20円を前提に算出している。2025年3月期の予想株主還元利回りは、25億円の新たな自社株買い発表を受けて75億円の自社株買い(従来は50億円)を反映させた結果、11.0%となった。

株価: 647円 時価総額: 945億円



出所: ブルームバーグ

リターン				
	年初来	1M	3M	12M
絶対(%)	-10.8	-7.2	-12.2	-7.8
相対(%)	-9.1	-7.8	-11.9	-13.7

セクター	
電子部品- その他	
テクノロジーハードウェア、ストレージ&周辺機器	

株式データ	
株価(円)	647
時価総額(10億円)	94.5
時価総額(100万ドル)	620.4
52週レンジ(円)	542-848
発行済株式数(100万株)	146.0
日次平均出来高(100万ドル)	1.9
浮動株(%)	82.0
外国人株式保有比率(%)	43.6
コード	6727
取引所	Tokyo Prime
純有利子負債/自己資本(倍)	N/A
FFOレバレッジ(倍)	N/A
ブルームバーグ 買い ホールド 売り	1 1 0

出所: ブルームバーグ

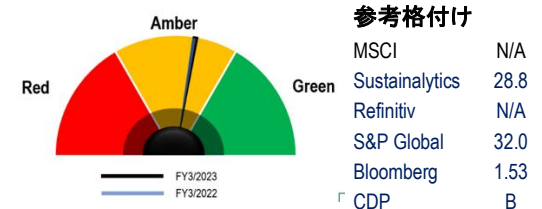
年度末	3/23	3/24	3/25E	3/26E	3/27E
売上高(10億円)	112.73	118.79	123.91	128.93	133.36
営業利益(10億円)	2.01	7.06	9.17	12.85	14.45
純利益(10億円)	1.79	4.56	6.69	9.38	10.55
EPS(円)	11.34	29.64	43.50	60.96	68.53
1株当たり配当(円)	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
売上高伸び率(%)	+3.6	+5.4	+4.3	+4.1	+3.4
営業利益成長率(%)	-84.5	+250.6	+29.9	+40.1	+12.4
純利益成長率(%)	-83.6	+154.5	+46.7	+40.1	+12.4
EPS成長率(%)	-83.3	+161.5	+46.7	+40.1	+12.4
PER(倍)	57.1	21.8	14.9	10.6	9.4
EV/EBITDA(倍)	18.4	8.1	6.7	5.0	4.5
EV/売上高(倍)	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
PBR(倍)	2.3	2.6	2.7	2.2	1.9
ROE(%)	4.3	11.9	19.0	24.5	22.8
ROCE(%)	4.5	15.4	20.7	24.8	24.0
FCF利回り(%)	(2.7)	16.0	7.3	11.8	11.4
配当利回り(%)	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
株主還元利回り(%)	5.2	11.0	11.0	6.3	6.3

出所: 会社データ、アストリス・アドバイザー(推定)

事業概要

ワコムはペンタブレット製品、ディスプレイ製品、および関連のデジタルインターフェイスソリューションの開発を専門とするテクノロジー企業。

アストリスサステナビリティESGレーティング



次のイベント

2025年4月: 2025年3月期第4四半期決算

電話: +81 3 6868 8797

Eメール: Corporateresearch@astrisadvisory.com

本レポートは同社から委託され、支払いを受けて作成されている。

最近の業績

2025 年 3 月期第 1～3 四半期決算

テクノロジーソリューション事業の増収と販管費減少により収益性が改善

主要財務データ

(10 億円)	第 1-3 四半期 24 年 3 月期	第 1-3 四半期 25 年 3 月期	前年同期比率 (%)
売上高	89.15	87.52	-1.8
売上総利益(損失)	27.84	29.83	+7.1
売上総利益率(%)	31.2	34.1	
販管費	22.57	22.22	-1.5
営業利益(損失)	5.27	7.60	+44.3
営業利益率(%)	5.9	8.7	
経常利益	6.66	8.40	+26.2
親会社株主に帰属する当期純利益	4.89	5.38	+10.0
平均為替レート			
米ドル	142.76	152.87	+7.1
ユーロ	155.19	164.91	+6.3
人民元	19.96	21.21	+6.3

出所: 会社データ

ブランド製品事業のセグメント損失は前年同期比で引き続き縮小

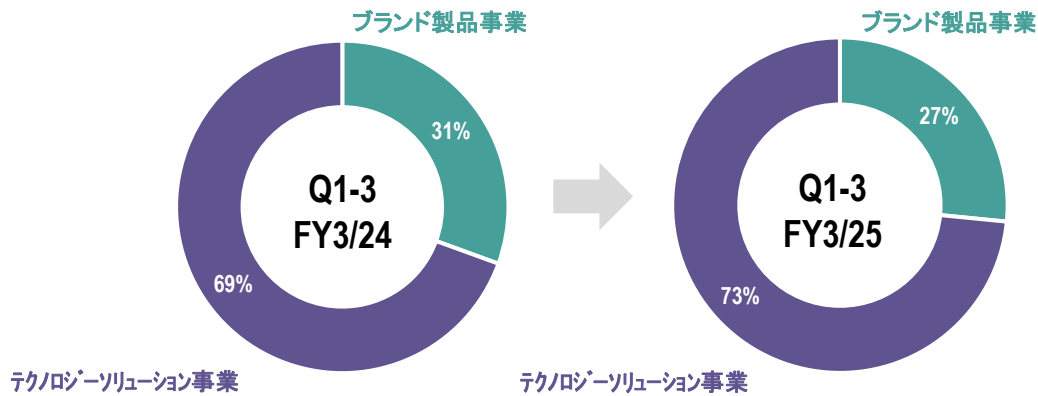
事業セグメント別データ (セグメント間取引消去前)

(10 億円)	第 1-3 四半期 24 年 3 月期	第 1-3 四半期 25 年 3 月期	前年同期比率 (%)
売上高			
ブランド製品事業	27.24	23.25	-14.6
テクノロジーソリューション事業	61.92	64.27	+3.8
セグメント利益(損失)			
ブランド製品事業	(3.07)	(1.65)	N/A
テクノロジーソリューション事業	12.05	13.28	+10.2
調整額			
セグメント利益率(%)			
ブランド製品事業	-11.3	-7.1	
テクノロジーソリューション事業	19.5	20.7	

出所: 会社データ

テクノロジーソリューション事業は第1～3 四半期累計総売上高の 73%を占めた

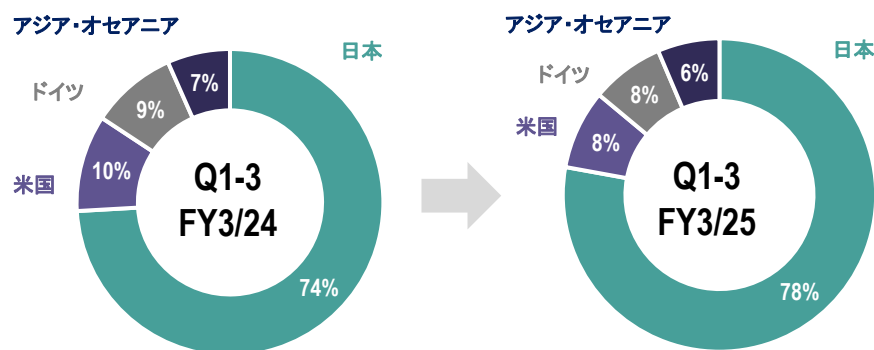
事業セグメント別売上構成



出所: 会社データ

テクノロジーソリューション事業(売上はすべて日本で計上)が引き続き成長を牽引

地域別売上構成



出所: 会社データ

テクノロジーソリューション事業は OEM 提供先の販売網を通じて全世界の顧客に商品を提供しているが、売上はすべて日本で計上される(販売価格は主に米ドル建て)。

決算ハイライト

次期中期経営方針「Wacom Chapter 4」(2026 年 3 月期～2029 年 3 月期)の発表が近づくなか、ワコムが発表した 2025 年 3 月期第 1～3 四半期決算は、同社の事業の強みと課題を浮き彫りにした。

- テクノロジーソリューション事業は、OEM 提供先への EMR(電磁誘導)テクノロジーソリューションの売上好調(前年同期比 10%増)がアクティブ ES(静電結合)テクノロジーソリューションの減収(同 9%減)を埋め合わせた結果、成長を維持した。

- ブランド製品事業では、商品ポートフォリオ全体のアップデートを進めるなか、プロ向けモデルはディスプレイ製品の新製品投入(Wacom Movink 13)が成功し好調だったものの、プロ向けモデル以外はディスプレイ製品の需要減少やペンタブレット製品の一部モデルの販売終了などにより低迷が続いた。

ブランド製品事業のセグメント損失が前年同期比で縮小したことは、棚卸資産に関する一時費用の減少や推進中の構造改革により、損益均衡に 2026 年 3 月期達する可能性があることを示唆する心強い兆候である。ただ、現時点では同事業が大きな収益の柱になるとは考えにくい。研究開発が継続していることから、中長期的には、AI(主に EdTech 分野)、XR(クロスリアリティ)、セキュリティ、リモートサービスなどの新たなイニシアチブから新たな収益ドライバーが生まれるだろう。

ワコムはペンとデジタルインクの統合体験を開発・提供するため、引き続き資本提携や IP 取得などの投資に注力しているようだ。2024 年 12 月に行った**国内有数の AI 企業である株式会社 Preferred Networks** に対する第三者割当増資による 10 億円の出資はその一例で、学びや医療を含む様々な分野のソリューション開発で両社の協業をさらに深化させることを目的としている。

2025 年 3 月期第 1～3 四半期決算は主に対ドルでの円安の追い風も受けており、為替の影響により、売上高は前年同期比で 53.5 億円、営業利益は同 10 億円押し上げられた。

25 億円の自社株買いを発表

ワコムは、25 億円(500 万株、発行済み株式総数の 3.61%)を上限とする新たな自社株買いを発表した。取得期間は 2025 年 2 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日としている。

これにより、2025 年 3 月期に終了する現在の中期経営方針「Wacom Chapter 3」期間中の自社株買いへの累計資本配分額は 200 億円となり、同方針で設定している 200 億円の目標に到達する。

当社の業績予想と主な前提条件

当社は 2025 年 3 月期以降の業績予想を維持している。

ワコムは 2025 年 3 月期通期の業績予想に変更を加えなかったが、ブランド製品事業の 2026 年 3 月期の利益水準を 20 億円以上改善するために推進している構造改革に関して、第 4 四半期に特別損失を追加計上する可能性があるとしている。

当社の業績予想はテクノロジーソリューション事業の安定とブランド製品事業の回復を反映

アストリス・アドバイザリーの業績予想

年度末	25 年 3 月期 (会社予想)	25 年 3 月期 (当社予想)	26 年 3 月期 (当社予想)	27 年 3 月期 (当社予想)
売上高 (10 億円)	120.00	123.91	128.93	133.36
成長率 (%)	+1.0	+4.3	+4.1	+3.4
営業利益 (10 億円)	8.50	9.17	12.85	14.45
営業利益率 (%)	7.0	7.4	10.0	10.8
EBITDA (10 億円)	-	11.65	15.43	17.11
EBITDA 利益率 (%)	-	9.4	12.0	12.8
FCF (10 億円)	-	6.51	11.39	10.65
FCF 利益率 (%)	-	5.3	8.8	8.0
FCF コンバージョン (%)	-	71.0	88.7	73.8
FCF 利回り (%)	-	6.7	10.9	10.5
DPS (円)	20.0	20.0	20.0	20.0
配当性向 (%)	46.9	46.0	32.8	29.2
配当利回り (%)	3.1	3.1	3.1	3.1
株主総利回り (%)	11.0	11.0	6.3	6.3

出所:アストリス・アドバイザリー

注:FCF コンバージョンは FCF/税引前利益

当社予想は以下を主な前提としている。

- **売上成長** – テクノロジーソリューション事業が OEM 案件を引き続き獲得して成長を維持することが主な原動力になる。
- **収益性** – ブランド製品事業の損失縮小に伴い営業利益率が着実に改善。
- **プラスの FCF 創出** – 運転資金管理の改善と、安定感のあるテクノロジーソリューション事業の売上構成比拡大の結果、FCF 創出の持続可能性が向上する。

株主還元に関する当社予想

- **配当** – 安定的な配当を維持するとみて、2025 年 3 月期～2027 年 3 月期の一株当たり配当を 20 円と予想。
- **自社株買い** – 2022 年 3 月期以降、毎年自社株買いを実施してきた。今後も継続するとの見通しは示されていないものの、次の理由から 2026 年 3 月期と 2027 年 3 月期も継続する可能性が高いと考える。

- 資本は充実しており、2024 年 3 月期のネットキャッシュ残高は 176.6 億円、長期投資有価証券は 16.1 億円(合計で株主資本の 54%に相当)。したがって、自社株買いに充当できる余剰資本がある。
- 運転資金管理の改善とテクノロジーソリューション事業の安定した業績により FCF 創出の持続可能性が高まり、資本が増加するとみられる。

当社は 2026 年 3 月期～2027 年 3 月期に年間 30 億円の自社株買いを予想している。



サマリー

ワコムはデジタルインク市場のリーダーでグラフィックタブレット、ペンディスプレイ、OEM ソリューションを専門とする

次期中期経営方針の主な目的は(1)デジタルインク、ライティング市場の拡大、(2)ブランド製品事業の黒字化定着、(3)新たな成長エンジンの商用化と市場実装

ワコムはペンタブレット製品、ディスプレイ製品、および関連のデジタルインターフェイスソリューションの開発を専門とするテクノロジー企業。大きく分けると、ブランド製品事業で市場をリードする自社製品を提供し、テクノロジーソリューション事業で Samsung、Lenovo、HP などの大手ブランド向け OEM ソリューションを提供している。

同社は現在、2026 年 3 月期からスタートする次期中期経営方針「Wacom Chapter 4」に合わせて新たな成長ステージに向けた事業変革の準備を進めている。その主な目的は次のとおり。

- 技術進歩と導入拡大を通じたデジタルインク、ドローイング市場の持続的成長。
- ブランド製品事業セグメントの商品ポートフォリオ刷新と構造改革による黒字化。同セグメントは、プロ向け市場での支持が高く、OEM 関係構築のきっかけにもなる自社ブランド製品を提供している。
- 新たな成長エンジンの商用化と市場実装。これは AI、XR 技術、セキュリティ、クラウドとの掛け合わせによる新サービスで、リカーリング収入の創出と収益の質の改善を目指す。

同社は 2023 年 5 月に以下を次期中期経営方針期間における主な財務目標イメージとして掲げていた(25 年 5 月にアップデート予定)。

- 事業規模: 売上高 1500 億円±10%
- 収益性: 営業利益率 10%前後(過去 5 年平均は 7.2%)

当社(アストリス・アドバイザー)の予想では、ワコムは以下を通じて中期成長を達成するとみられる。

- OEM 案件を引き続き拡大し、テクノロジーソリューション事業において着実な売上成長を達成。
- ブランド製品事業の商品ポートフォリオ刷新と構造改革により黒字化が定着。
- リカーリングサービス収益の創出により売上構成を改善し、営業利益率のさらなる改善。

当社の予想に基づくと、ワコム株は 2026 年 3 月期予想 PER10.6 倍、同 FCF 利回り 11.8%、同株主総利回り 6.3%で取引されている。



会社概要

概要

ワコムはデジタルペン・タブレット分野のリーダー企業

1983年に設立されたワコムは、ペンタブレット製品、ディスプレイ製品、および関連のデジタルインターフェイスソリューションの開発を専門とするテクノロジー企業で、エントリーモデルからプロフェッショナル向けまで幅広い自社ブランド製品を製造するとともに、Samsung、Lenovo、HP、富士通などの大手エレクトロニクス・PCブランド向けにOEMソリューションを提供している。同社は、世界のアーティスト、デザイナー、クリエイターに使用され、支持される高品質の製品で知られる高いブランド力を誇る。

ワコムのキーテクノロジーは、EMR(電磁誘導)とアクティブES(静電結合)の両方式を展開するデジタルペン技術に加えて、WILL(Wacom Ink Layer Language)に代表されるデジタルインク技術の「Universal Ink Model」があり、デジタルペンのストロークデータをサービスに最適なフォーマットに変換する。特許を取得した知的財産である同技術は手書き分析に適用可能で、クリエイティブな入力の可視化、学習進捗状況の把握などが用例として挙げられる。

キーテクノロジーの一つは特許を取得した Universal Ink Model

ワコムは、タブレットを用いたオンライン学習コースを運営する国内教育サービス大手のZ会(株)増進会ホールディングス)と業務提携し、EdTech(教育テクノロジー)セクターに進出している。ナレッジグラフ(AI)ベースの学習体験活用とデジタルペンのストロークデータ分析により、生徒のユーザーインタラクション改善や個人に合わせた学習、高度な解析が可能になる。手書きの生データにアクセスできるという点で、ワコムはEdTechセクターで学習管理システム(LMS)を積極的に展開している同業他社(Moodle、Google Classroomなど)よりも上流工程で競争優位に立てる。

EdTechセクターに進出

同社は以下を主な目標としている。

- 技術進歩と導入拡大を通してデジタルインク、ドローイング市場を成長させる。
- プロ向け市場での支持が高く、OEM関係構築のきっかけにもなるブランド製品事業(自社ブランド事業セグメント)の商品ポートフォリオ刷新と構造改革により業績を回復させ黒字化する。
- 次期中期経営方針「Wacom Chapter 4」(2026年3月期～2029年3月期)の方向性で示された次世代の成長エンジンの商用化と実装。これにはAI、XR空間、セキュリティ、クラウドとの掛け合わせによるサービスが含まれる。

主な目標は、(1)デジタルインク、ライティング市場の拡大、(2)ブランド製品事業セグメントの黒字化定着、(3)新たな成長エンジンの市場実装

当社はワコムが積極的な変革を目指して努力し、新たな成長イニシアチブを推進していると考えている。業績の可視性を向上する必要はあるが、サービス収入とライセンス収入の導入により売上構成は改善し、これらのリカーリング収入が業績の安定性を向上するだろう。

ワコムには2つの主要事業セグメントがある。

- **ブランド製品事業** –クリエイターや企業向けにワコムブランドの製品・ソリューションを提供。



- **テクノロジーソリューション事業** – スマートフォン、PC、タブレット PC、電子書籍、その他デバイス分野の OEM 先企業向けにテクノロジーソリューションを提供。

デジタルインク、ドローイング業界での長期にわたる実績

主な沿革

年月	事項
1983 年 7 月	埼玉県上尾市において株式会社ワコムを設立
1984 年 4 月	世界初のコードレスカーソルのペンタブレット「WT シリーズ」発表
1987 年 9 月	世界初のコードレス・電池レスペンタブレット「SD シリーズ」発表
2002 年 4 月	ペンセンサーコンポーネント分野(現テクノロジーソリューション事業)に進出
2003 年 4 月	日本証券業協会 JASDAQ 市場上場
2005 年 12 月	東京証券取引所市場第一部上場
2021 年 5 月	「Wacom Chapter 3」中期経営方針(2022 年 3 月期～2025 年 3 月期)発表
2022 年 4 月	東京証券取引所プライム市場に移行

出所: 会社データ

事業セグメント別データ

ワコムには 2 つの主要事業セグメントがある。

現在のセグメントの詳細

事業セグメント	概要	製品ライン
ブランド製品事業	クリエイティブ系の個人ユーザーや企業向けにワコムブランドの製品・ソリューションを提供。	- ディスプレイ - ペンタブレット - 液晶サインタブレット
テクノロジーソリューション事業	スマホ、タブレット、その他デバイス分野の OEM 先企業向けにテクノロジーソリューションを提供。	アクティブ ES(静電結合方式) /EMR®(電磁誘導方式)デジタルペン技術ソリューション

出所: 会社データ

JGAAP に基づく要約財務諸表

損益計算書 (10 億円)	期 3/23	期 3/24	期 3/25E	期 3/26E	期 3/27E
売上高	112.73	118.79	123.91	128.93	133.36
売上原価	81.56	82.03	85.50	88.96	90.68
売上総利益	31.17	36.77	38.41	39.97	42.67
売上総利益率(%)	27.7	30.9	31.0	31.0	32.0
営業利益	2.01	7.06	9.17	12.85	14.45
営業利益率(%)	1.8	5.9	7.4	10.0	10.8
営業外収益	0.92	2.99	0.10	0.10	0.10
営業外費用	(0.07)	(0.19)	(0.10)	(0.10)	(0.10)
経常利益	2.87	9.85	9.17	12.85	14.45
特別利益	0.00	0.15	-	-	-
特別損失	(0.68)	(4.09)	-	-	-
税引前当期純利益	2.19	5.91	9.17	12.85	14.45
法人税等	(0.40)	(1.35)	(2.48)	(3.47)	(3.90)
実効税率(%)	14.0	13.7	27.0	27.0	27.0
当期純利益	1.79	4.56	6.69	9.38	10.55
非支配株主に帰属する四 半期純利益	-	-	-	-	-
親会社株主に帰属する四 半期純利益	1.79	4.56	6.69	9.38	10.55
売上高前年比伸び率(%)	+3.6	+5.4	+4.3	+4.1	+3.4
営業利益前年比伸び率 (%)	-84.5	+250.6	+29.9	+40.1	+12.4
税引前当期純利益前年比 伸び率(%)	-84.9	+169.6	+55.1	+40.1	+12.4
当期純利益前年比伸び率 (%)	-83.6	+154.5	+46.7	+40.1	+12.4

貸借対照表 (10 億円)	期 3/23	期 3/24	期 3/25E	期 3/26E	期 3/27E
現金・預金	20.02	31.66	28.31	35.53	41.95
商品	21.73	13.09	13.65	14.21	14.69
売掛金	12.05	12.86	13.41	13.95	14.43
その他	6.38	7.07	7.38	7.68	7.94
流動資産	60.17	64.68	62.75	71.37	79.02
有形固定資産	6.21	5.72	6.09	6.47	6.87
のれん	-	-	-	-	-
無形固定資産	1.50	1.53	1.90	2.29	2.69
投資等	1.26	1.61	1.61	1.61	1.61
その他	6.14	6.08	6.08	6.08	6.08
固定資産	15.11	14.94	15.68	16.46	17.26
資産合計	75.28	79.62	78.43	87.82	96.27
短期借入金	7.63	7.80	7.80	7.80	7.80
買掛金	10.64	11.48	12.27	12.76	13.01
その他	11.77	14.62	14.14	15.49	15.39
流動負債	30.04	33.90	34.20	36.05	36.20
長期借入金	2.00	7.00	7.00	7.00	7.00
その他長期負債	2.75	2.75	2.75	2.75	2.75
長期負債	4.75	9.75	9.75	9.75	9.75
株主資本	40.49	35.97	34.47	42.02	50.32
新株予約権	-	-	-	-	-
非支配株主持分	-	-	-	-	-
純資産	40.49	35.97	34.47	42.02	50.32
負債・純資産合計	75.28	79.62	78.43	87.82	96.27

出所: 会社データ、アストリスアドバイザー(予想)

キャッシュフロー計算書 (10 億円)	期 3/23	期 3/24	期 3/25E	期 3/26E	期 3/27E
税引前当期純利益	2.19	5.91	9.17	12.85	14.45
減価償却費	2.20	2.57	2.48	2.58	2.67
運転資金の増減	(1.43)	9.32	(0.55)	1.00	(0.59)
その他の非現金項目	(0.29)	1.68	-	-	-
法人税等支払額	(3.72)	(2.00)	(2.48)	(3.47)	(3.90)
営業活動によるキャッシュフロー	(1.06)	17.48	8.62	12.96	12.62
設備投資	(1.54)	(2.32)	(1.73)	(1.81)	(1.87)
投資有価証券	-	-	(1.00)	-	-
その他の投資活動によるキャッシ ュフロー	(1.60)	0.04	(0.78)	(0.37)	(0.58)
投資活動によるキャッシュフロー	(3.14)	(2.28)	(3.52)	(2.18)	(2.44)
配当金支払額	(3.18)	(3.12)	(3.08)	(3.08)	(3.08)
社債発行による収入(償還による 支出)	6.25	4.21	-	-	-
株式発行による収入	(2.00)	(7.51)	(7.50)	(3.00)	(3.00)
その他	-	-	-	-	-
財務活動によるキャッシュフロー	1.07	(6.43)	(10.58)	(6.08)	(6.08)
為替影響	1.32	2.92	2.12	2.52	2.32
ネットキャッシュフロー	(1.81)	11.68	(3.36)	7.23	6.42

フリーキャッシュフロー(FCF)	(2.60)	15.16	6.89	11.16	10.75
EBITDA	4.21	9.63	11.65	15.43	17.11
EBITDA 利益率(%)	3.7	8.1	9.4	12.0	12.8
FCF マージン(%)	-2.3	12.8	5.6	8.7	8.1
FCF コンバージョン(%)	N/A	256.4	75.1	86.8	74.5
設備投資/売上高(%)	1.4	2.0	1.4	1.4	1.4
設備投資/減価償却(%)	70.1	90.4	70.0	70.0	70.0
営業 CF マージン(%)	-0.9	14.7	7.0	10.1	9.5

主要指標	期 3/23	期 3/24	期 3/25E	期 3/26E	期 3/27E
収益性					
売上総利益率(%)	27.7	30.9	31.0	31.0	32.0
営業利益率(%)	1.8	5.9	7.4	10.0	10.8
当期純利益率(%)	1.6	3.8	5.4	7.3	7.9
ROA(%)	2.4	5.9	8.5	11.3	11.5
ROE(%)	4.3	11.9	19.0	24.5	22.8
ROCE(%)	4.5	15.4	20.7	24.8	24.0
ROIC(%)	3.6	12.1	13.4	17.7	17.3
流動性					
流動比率(倍)	2.0	1.9	1.8	2.0	2.2
クイック比率(倍)	1.3	1.5	1.4	1.6	1.8
負債比率					
D/E レシオ(倍)	0.2	0.4	0.4	0.4	0.3
ネット D/E レシオ(倍)	net	net	net	net	net
	cash	cash	cash	cash	cash
自己資本比率(倍)	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5
インタレスト・カバレッジ・レシ オ(倍)	43.9	76.0	88.5	124.1	139.5
D/E レシオ(倍)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
バリュエーション					
EPS(公表値)(円)	11.3	29.6	43.5	61.0	68.5
PER(倍)	57.1	21.8	14.9	10.6	9.4
希薄化後 PER(倍)	57.1	21.8	14.9	10.6	9.4
DPS(円)	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
配当性向(%)	176.4	67.5	46.0	32.8	29.2
配当利回り(%)	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
株主総利回り(%)	5.2	11.0	11.0	6.3	6.3
FCF 利回り(%)	(2.7)	16.0	7.3	11.8	11.4
希薄化後 FCF 利回り(%)	(2.7)	16.0	7.3	11.8	11.4
PBR(倍)	2.3	2.6	2.7	2.2	1.9
EV/売上高倍率(倍)	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
EV/EBITDA 倍率(倍)	18.4	8.1	6.7	5.0	4.5
EV/EBIT 倍率(倍)	38.5	11.0	8.5	6.0	5.4
EV/FCF 倍率(倍)	N/A	5.1	11.3	7.0	7.2



免責事項

本レポートは、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が作成したものです。本レポートは、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が信頼できると考える公開情報源から入手した情報に基づいていますが、独自検証は行っていない、その正確性や完全性について保証、表明、保証をするものではありません。本レポートは、当該企業について述言及すべき全事項を記載したのではなく、また、記載を試みるものでもありません。ここに記載された意見は、本レポート作成時点におけるアストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社の判断を反映したものであり、予告なく変更される場合があります。本レポートに記載されている将来の見通しに関する情報または記述には、仮定、今後の業績予測、未確定な金額見積もりなどに基づく情報が含まれているため、既知および未知のリスク、不確実性および、このテーマに関する実際の結果、業績または成果が現在の予想とは大きく異なる可能性をもたらすその他要因が含まれています。

本レポートは概説として作成されたものであり、特定の金融商品または戦略を個人的に推奨するものではなく、また個人的な投資アドバイスを構成するものでもありません。

アナリストは、(i)本レポートで表明する見解は、本レポートの対象である企業および証券に関する当該リサーチアナリストの個人的見解を正確に反映していること、(ii)当該リサーチアナリストの報酬のいかなる部分も、直接的にも間接的にも当該リサーチアナリストが本レポートで述べた見解に過去、現在、未来を通して関連しないことをここに証明します。

本レポートは、日本法に基づき設立され、日本の金融庁の監督下にあるアストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社により作成されました。現地当局による規制範囲に関する詳細をご要望の場合は、弊社から入手可能です。

利益相反

本レポートは、当該企業が委託して費用を負担したものであり、MiFID II で定義される許容可能な軽微な非金銭的利益に該当すると判断されるものです。

読者は、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が、現在、もしくは今後3ヶ月以内およびその後、当該企業に対してIR/コーポレート・アドバイザリーなどのサービスを提供する、または提供することを求める可能性があることを前提とする必要があります。

記載金融証券への投資:アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、取締役、役員、従業員およびサービスプロバイダーの個人的な取引について制限的な方針をとっています。アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、投資業務を行っておらず、本レポート記載の金融証券は一切保有していません。

責任制限

アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、本レポートに基づき投資家が行った投資、売却、保有の決定に関して、いかなる責任も負わないものとします。アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、本レポートの情報に起因する直接的、間接的、偶発的、特別、または結果的損害(予見可能か否かを問わず)に対して、一切の責任を負わないものとします。

Copyright 2025 Astris Advisory Japan K.K. All rights reserved.

全著作権所有。無断転載禁止